

## 1. はじめに

本校は今年度、開校40周年を迎えました。この記念の年に同職場で勤務する私たちは、生徒ともに新たな気持ちで学校づくりを進めていきたいと考えます。教育活動の根幹は、やはり、コミュニケーションにあると言っても良いのではないかと思います。生徒、保護者、地域との関係をより良いものにしていくことで、教育活動も安定し、しかも実りのあるものになっていきます。初期対応の重要さはご存じのとおりです。ポタンの掛け違いが大きな誤解となり信頼関係を損なうものです。初期対応の重要さをさらに認識し、組織的に運営、対応を行い、信頼のできる南中にしていきたいと考えます。「南中プライド」を活動の指針にしています。南中に関わる皆さんがそれぞれこの意識を持つことで素晴らしい学校になると信じます。

今年度生徒数が減少し、新入生は3学級となりました。来年度も予断を許さない状況です。職員の異動がありますが、そのような中でも本校の最大の課題である学力の向上、向上心の醸成、将来への展望などがあります。全職員が一丸となって生徒・保護者などに対応し、「あいさつ」ができ、朗らかな気質を持ち、南中生であることを自覚し、安心・安全で、学ぶことが楽しいと思える学校を築くことが大切であると強く思っています。

本校は学校応援団の活動、ボランティア活動など地域・町会との親密な連携により、その教育力を生かした活動を通して、自分の視野を広げ、知識を深めより自らが望む進路を、自信を持って選択し、開拓していきける生徒を全教職員の力を結集して、これからも育成していきたいと思えます。

現在の学校は、多岐にわたる対応を臨機に行わなければならない、対応に苦慮することも多々出てくると思えます。また、個に応じる指導、発達段階を見極めた指導、特性を熟知しそれらを伸ばしていくことなどが求められています。教師の自覚と意欲が求められている訳です。どうぞ、力を高めて、それを発揮し全生徒にコミュニケーション力を高め、ストレスや悩みを解決する能力をさらに身につけさせ、それらを通して教師自身の能力・可能性を広げられるようにしていく指導が求められています。

このように生徒に対するきめ細やかな指導・支援が必要となっていることを再認識してください。

## 2. 本校の教育目標

人権尊重の精神を基に、国際社会に貢献できる日本人の育成

- 一 学び続ける人
- 二 思いやりのある人
- 三 心身の健康に努力する人

## 3. 今年度のスローガン

### 南中プライド !!

今年度で4年目のスローガンです。今年度も学校が一丸となって、生徒・保護者に南中生としてのプライドを持たせ、行動の規範意識をもつことのできる取り組みを推進して参りたいと思えます。また、教師も南中の一員であることの自覚をもって、このスローガンを教育活動の指針としていただきたいと思えます。

## 4. 目指す方向

### ①、めざす学校像

- ・生徒の能力を高め、資質の向上をめざす学校
- ・入学させてよかったと保護者、地域から信頼される学校
- ・教職員も資質の向上を常に心がけ、高めあい、組織的に協働できる学校

### ○めざす生徒像

- ・南中プライドを常に胸にとどめ、規範意識のある生徒
- ・将来に対するビジョンをきちんと描き、それに向かって努力できる生徒
- ・人権意識を持ち、他者を尊重できる生徒

#### ○めざす教師像

- ・学校としての組織力を高め、課題の克服に、意欲的に取り組む教師
- ・法令順守意識の向上を図り、説明責任が果たせる服務を実践する教師
- ・日常の授業を大切にして、より良い授業を行うための研修を励行する教師。

### 4. 経営方針

#### ○学習指導の徹底

- ・江戸川区特別の教科道徳の教育課題実践校の実践を通して、指導・評価に生かすよう研鑽していく。
- ・学習指導要領に定められている各教科各単元の目標をめざし、指導方法を改善していく。
- ・基礎的、基本的な内容を徹底して身につけさせるため、個に応じた指導を行い、課題解決型の学習を行う。また、生徒の質問などへの迅速な対応を行う。
- ・各教科において、①言語活動を意図的に取り入れる。②道徳性を高める内容を取り扱う。
- ・指導計画は、全生徒が評価基準の達成をめざし、その達成度を適正に測れるようにする。
- ・指導と評価の一体化を図り、説明責任を果たす。
- ・授業時数の確保を前提にカットの削減を図る。
- ・補充学習の充実を図る。

#### ○授業規律の確立

- ・チャイム始業を図り、授業を行う。
- ・授業への意識を高め集中した取り組みを行わせ、合わせて着座姿勢をきちんとさせる。

#### ○生活指導の徹底

- ・全教育活動において生徒理解に努める。生徒指導資料を活用する。生徒の問題行動の起因を個々が持つ資質(発達障害なども含む)・家庭環境などの面を熟知し指導にあたる。
- ・問題行動の性格、家庭、疾患などの発生要因をよく検索し、指導の際に原因を把握しながら指導にあたる。
- ・人権教育の視点を強くもち、「いじめは許さない」という全生徒の心情を育む。
- ・基本的な生活習慣(あいさつ、時間、服装、言葉遣い、姿勢)を徹底して身につけさせる。
- ・不登校生徒を増やさない。各家庭との連絡を密にとり、外部機関(子ども家庭支援センター、民生児童委員、生活支援課)と連携していく。

#### ○特別支援教育

- ・「支援を要する生徒」の障害特性を理解するとともに、個別の指導計画に基づいた適切な指導を図り、生徒の良いところの伸長を図る
- ・生徒に障害について理解させる機会を設け、「インクルーシブ教育」の精神を涵養する。

#### ○学校運営

- ・学校組織の一員としての自覚を高め、職務のつながりを意識しながら、報告・連絡・相談の原点に戻り迅速に行い、進行管理、相互援助を実践する。
- ・常に危機管理を意識し、未然防止、迅速な初期対応が行えるようにする。
- ・教育公務員としての責任ある言動の履行を厳守する。

#### ○保護者、地域との関係、連携の強化

- ・保護者からの信頼を得るための丁寧で誠実な対応を常にとる。
- ・学校応援団の活用を促進し、地域の教育力を生かした教育活動を展開する。また、地域行事などへのボランティア参加も積極的に行い関係をさらに深める。
- ・小、中、高の連携を深め、それぞれの文化の理解し、教育活動に生かしていく。

### 5. おわりに

教育に携わるプロとしての意識を常に持ち、日常の学校運営を進め、創造的で建設的であり、そして何より積極的に、そして、組織的に教育活動を展開していきたいと思えます。